

(2) 3年題材とその取り扱い

題材 体操、器械運動（とび箱）「腕立てとび越し（開脚）」

器械運動（とび箱）

器械運動は、個人差が著しく現れる教材である、従って、できる子どもにとっては、すこぶる興味をもつが、できない子どもにとっては、ますますいやになり意欲を失ない勝ちである。また高さや長さがあるうえに、転回したり、とび越したりするので、恐怖心をもたせることがある。このようなことを除くには、低いものから高いものに、簡単なものから複雑なものにと段階をふんだ過程で、程度（能力）別の指導がたいせつになる。

そのためには、教材分析によって、段階的な教授過程を想定するとともに、体操との組み合わせによって、大集団での自己整調をはかる必要がある。

その具体的事項をあげると次のようになる。

ア とび箱を縦、または横に置き、助走して両手をついて開・閉脚でとび越させる。

イ とべないものは、馬のりになったり、とび上がったりにして、だんだんとべるようにしむける。

ウ とび越すことを前提として、踏み切り、手のつく位置、着地の要領を会得させる。

エ タイミングのよい開脚の腕立てとび越しをできるようにさせる。

その授業の展開には、程度別の3つのグループ（小集団）に分け、個別的指導をすることになるが、全過程をとおして固定しないで、向上の度合いによって編成替いをする。教師の役割・分担は、T L、S Tといった各立場で分業・協業をすることになる。

(3) 題 材 構 成

① 目 標

項 目	体 操	腕 立 て と び こ し
体 力	1. 跳躍運動によって、しゅん発力、調整力を養なう。 2. 部分的運動によって、からだの柔軟性を強める。	1. 調整力（協応性、巧ち性）を養なう。 2. 筋力（跳躍力）を強める。
技 能	1. 簡単な体操をとおして、部分的、全身的に極限まで動かすことができる。	1. 助走 — 両足ふみ切りで50～60cmくらいのとび箱を腕立てとび越しでとぶことができる。
態 度	1. 運動の要領を理解し、まじめに運動する態度を身につける。	1. 友だちの演技を見る態度を身につける。
健 康 安	1. 運動する場所を整備し、安全に用具を配置することができる。	1. 運動後のからだを清潔にすることができる。

② 児童の実態

1・2組合併で86名、男38名、女48名である。

一般に身体的活動の欲求が強く、戸外運動を好み、自発的行動が現われ、危険をおかして、スリルを楽しむ傾向がみられる。また仲間とい

っしょに行動することが多くなり、共通の目標で協力しあい、グループの中で認められようとする意識が強いようである。不安を克服しようとする努力もみられるようになり、男女の性別も意識しはじめている。男女の差はほとんど見られないが、2・3の肥満児が技能面で劣って